

ケアマネの部屋

発行日：平成 24 年 3 月 31 日 (No.10)
発行元：浜松市介護支援専門員連絡協議会
ブログ：はままつケアマネの部屋
<http://keamanenoheya.hamazo.tv/>

会長挨拶



「時代に合わせた広報活動へ向けて」

会長 栗倉 敏貴

先般、厚生労働省から社会保障審議会・介護給付費分科会への諮問という形で、平成 24 年度の介護報酬改定に関する具体的な数字が明らかにされました。会員の皆様には、この改定への対応協議等により、ご多忙を極めていらっしゃるかと思います。

この報酬改定は、医療依存度の高い利用者の増加に伴い、ケアマネジャーの医療連携を促進するものと言えますが、他方では将来の高齢者の社会生活を左右する大きな問題を内包するものでもあります。本会でもこの改定による利用者への影響について分析を進め、可能な範囲で提言や発題をしていくことも検討いたします。

さて、本会では広報媒体として、長らく年二回の『ケアマネの部屋』を発行し、皆様のご愛読をいただいています。この『ケアマネの部屋』は広報委員会が担当として編集に当たり、浜松市内外の介護保険周辺情報を収集し、取捨選択して取りまとめながら、皆様に役立つ内容を整えるべく努力してまいりました。

しかし、いまや時代はIT（コンピューターを活用した情報技術）による情報交換が主流となっています。ケアマネジャーは介護保険制度発足当初から、コンピューターを利用して給付管理業務をする職能という位置づけをされており、時流に乗ってインターネット関連の便利な道具を広く活用しながら、仕事をしていくことが求められます。

そのため、本会では今年度中にブログ『はままつケアマネの部屋』を立ち上げ、今後はこれを団体の広報媒体として活用していく方針を明確にしました。来年度の早い時期に、会員の皆様に対するブログの普及状況を聴取しながら、これまでの『ケアマネの部屋』を遠からず廃止し、『はままつケアマネの部屋』へ移行していきたいと考えています。

皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

ケアマネジャーと多職種連携について（訪問介護編）

「訪問介護事業所と居宅介護支援事業所の連携について」

在宅介護センターアイケア浜松 村松 幸子氏

福祉及び医療の各職種の連携における重要視点に「ほうれんそう」があります。

福祉系サービスに比べ、その利用者の自宅に訪問してサービスを提供するヘルパーのサービスは、なんの飾り気の無い、その人そのものにふれる事ができます。そのため訪問介護事業所と居宅介護支援事業所の連携内容は、利用者からのよろず相談、ADLの低下、または向上などの現状変化に対する事業所側からの提案などと多岐にわたります。

その具体的方法について記載してみましよう。当社訪問介護事業所は生活に密着した在宅ヘルパーだからこそ気付ける「いつもと違う」を敏感に感知し、次の流れで連携をマニュアル化し、次のように連携をとります。

①連絡事項を電話連絡する→ ②経過記録に残す→ ③FAXにて同内容記録を送付する

このようにケアマネジャー報告する事で訪問介護事業所を含む、その他の事業所からの情報を収集し、総合的な評価をするのに役立ててもらおうようにしていきます。また、月に一度は居宅介護支援事業所を訪問し、月実績の報告、先の連携で不足している内容の補足など、顔が見えるコミュニケーションによって信頼関係を深めていく。そのケアマネジャーとの信頼が深まる事で利用者にとって善い生活を送っていただくための基礎となると確信し、連携を継続させる事が私たち訪問介護事業者の重要な役割であると常に意識して、今後の業務を進めていきたいと思っております。



地域包括支援センターの活動報告（北区）



地域包括支援センター細江



地域包括支援センター三方原

北区は浜名湖の北東部に位置し、美しい自然景観や名所旧跡、さらには伝統芸能など観光資源が豊富な地域です。また、ひかり産業など先端技術産業の集積が進む一方、果樹を中心とする農業も盛んです。東名高速道路に加え、第2東名や三遠南信道路のインターチェンジ、ジャンクションなどの整備が進み浜松市の西の玄関口でもあります。（浜松市ホームページより）

1 地域包括支援センターの紹介

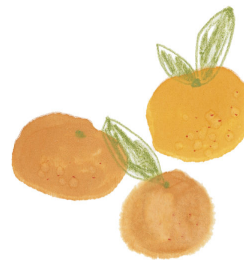
北区には、二つの地域包括支援センターと一つの支所があります。（ ）内は担当地区
地域包括支援センター細江（引佐・細江・三ケ日） 三ケ日支所（三ケ日）
地域包括支援センター三方原（都田・新都田・三方原）

2 地域特性と共通に見られること

別荘地や観光地、昔ながらのコミュニティが残る地域、市営住宅や新興の住宅地域、アパートやマンションを多く持つ地域などそれぞれ特色があり、住民意識も異なります。
しかし、いずれの地域でも高齢化がすすみ、特に認知症に関わるケースが数多く見られるようになりました。一人暮らしや高齢者世帯、独身の息子・娘と高齢者の世帯など支援対象としてよくあがることも共通しています。

3 基礎データ（平成23年4月現在）

項目	人数
人口	約95,000人
高齢者人口	22,000人
高齢化率	23.3%
ひとり暮らし	3,088人



4 北区行政と包括支援センター協働で開催している会議など

情報交換会（介護保険、地域支援事業、新施設等の情報を共有化することを目的としています）を年4回、虐待・困難事例進捗会議と事務連絡を主目的とした連絡会を年6回、区役所で開催しています。他に事例検討会や地域ケア会議も協力しながら行っています。
また、年1回ケアマネ連絡協議会と研修を協働で開催しています。

5 相談について

民生児童委員協議会や自治会の集まりに参加するなか、地域からの相談も多く受けるようになりました。北区内には病院が多く、医療機関からの相談も数多くあります。
ケアマネからの相談を受け、担当者会議の同席や関係機関と連携し、ケアマネの後方支援の役割も担っています。今後も、地域住民へよりよいケアが提供できるよう、共に努力していきたく思いますので、ご協力よろしくをお願いします。

研修報告（平成 23 年度浜松市介護支援専門員連絡協議会合同研修会）

広報委員 関口 進

平成 23 年度浜松市介護支援専門員連絡協議会の全体集会在昨年 10 月 29 日（土）に可美総合公園にて開催いたしました。

新人コース、医療分野コース、困難事例コースとテーマを 3 つのコースに分けて研修をしました。今後も当連絡協議会ではケアマネジャー業務に役立つ研修会を開催していきたいと思ひます。

新人コースは参加者 28 名で新人ケアマネジャーが知っておくべき業務について資料を確認しながら説明があり、新人ケアマネジャーが不安になりがちな手続きの説明がありました。ベテランのケアマネジャーにとっても日頃の業務の再確認になりました。内容によっては行政の方からの説明もありました。参加者のアンケートでは 25 名の方が大変参考になり、今後の仕事に活かしていこうと思ったと回答しています。



医療分野コースは参加者 61 名が参加し、訪問看護の方から事例を通して医療との連携の仕方、疾病の支援の留意点、退院時のカンファレンスの準備の方法等の説明があり、ケアマネジャーの視点とは違った説明があり参考になったという意見が多くありました。参加者の 45 名が今後の仕事に活かしていこうと思ったとアンケートで回答しています。

困難コースの参加者は 59 名でした。エコマップを使い困難事例の対応の仕方を勉強。ケアマネジャーとしての立ち位置を再確認できた、見えなかったことが見えてきたとの感想がありました。本人の思いを理解すること、アプローチの方法、システムを形成する等の大切なことが理解できたという感想がありました。



－編集後記－

「ケアマネの部屋」も今号で 10 号を発行することができました。これもひとえに多くの皆様に支えられてきたお蔭かと思ひます。この場を借りてお礼申し上げます。また、ご存知の方も多くいらっしゃると思いますが、WEB サイトに当協会のブログを掲載しております。会長の話にもありますように、皆様への情報提供をこの機関誌ではなく、ブログにて行っていけるよう準備を進めています。ブログをまだ始めたばかりですが、皆様に有用な情報提供を行っていけるようスタッフが試行錯誤しながら編集しております。是非この機会に閲覧していただけましたら幸いです。

☆☆『はままつケアマネの部屋』アドレス <http://keamanenoheya.hamazo.tv/> ☆☆

ご意見やご感想がございましたら事務局までお寄せ下さい。（介護保険課 FAX 053-450-0084）
今後、ますます充実したものになりますよう、関係皆様のご理解とご協力をお願いします。

広報委員会



村松佐知子 関口 進 飛田ひさ子 佐口 明 鈴木澄男 袴田佳代子 榎原和美 平出和代